

夏のおくり物

三ツ井 彩乃

夏になりました。冬の間、町にいた動物たちが、森にひっこしてくる季節です。ふたごのウサギ、トトとムムの住んでいるどろぶつ森も、とてもにぎやかになりました。

朝から、太陽がさんと照りつける、ある日曜日の朝、トトがゆうびんうけをのぞくと、いつものように新聞が入っていました。でも、ほかの家のゆうびんうけには、

どろぶつの森たより

今日の朝九時に、集会があります。

森の公民館に集まって下さい。

村長 野ネズミ

という紙も、いっしょに入っていました。

森の公民館というのは、森の入り口にある、赤いトンガリやねの小さな小屋のことです。

中には動物たちがすわる木のいすと、小さな黒板があり、森の集会は、ほとんどここでやるのです。

朝九時近くになると、動物たちが集まってきました。いつも昼間はねているフクロウさんや、最近どろんこぬまにひっこしてきたカップパさんもきました。カラスさんは、赤ちゃんカラスをせなかにのせて、

「せなかの上でさわがないで」

と言いながら、飛んできました。

みんながイスにすわると、村長の野ネズミさんが、せきばらいをしてから言いました。

「みなさん、次の日曜日、ふたこのウサギ、トトとムムの九才のたん生日ですね。そこで、今日はトトとムムのたん生日会の計画を立てます」

野ネズミさんが言い終わると、ニワトリの赤ちゃんのニつこのひよこが、
「ピヨピヨ、ピーピヨ」

と返事をしました。この森では、十才までの子どもが、森のみんなにたん生日のおいおいをしてもらえるのです。

森の動物たちが、朝から集会をやっているとは知らずに、トトとムムは、家のそうじをしていました。『日曜日はそうじの日』と決めているのです。ニひきとも、ムムがかけているそうじきの、

「ブイーン、ブイーン」

という音で、外が静かなのには気づきません。やっとすみまでぞうきんをかけおえたトトは、

真っ黒になったぞうきんを見て、

「ぼくたちはこんなほこりの中で息をしていたんだねえ」

と言いました。

その時、風でゆれているカーテンのすき間から、シュツと紙ひこうきが入ってきました。びっくりしたトトが、紙ひこうきをひろってみると、はねのところに、「おてがみよんでね」と書いてあります。トトが、ムムといっしょに紙を広げてみると、

こんどのにちようび、おひるにひろばに
きてね。ぴいこ・ぴいすけ・ぴいたろう
より

と書いてありました。ムムが急いで、まどから外をのぞくと、小さい物が三つ、ピヨピヨと歩いていくのが見えました。二ひきは顔を見合わせました。

「なんだろう?」

「いたずらかな?」

「おもしろそうだよ。行ってみようよ」

「そうだね。ちよっとわくわくするね」

二ひきは、けっきょく行ってみることにして、カレンダーの次の日曜日に、赤いしるしをつけました。

さて、次の日曜日、トトとムムが、きよろきよろしながら、森の広場に行くと、みんなが集まってきて、

「おたん生日おめでとっ」

と、口々に言いました。トトとムムは、はっとして、今日が自分たちのたん生日だったのを思い出しました。

二ひきがびっくりしていると、むこうの方からいいにおいがただよってきました。カラスさ

んや、クマさんたちが、大きなおなべでカレーを作っていたのです。

「おいしそう」

ムムが鼻をヒクヒクさせながら言うと、

「早く行って食べようよ」

と、くいしんぼうのパンダさんが、おなかをグーッと鳴らしながら言いました。

カレーは、じゃがいも、なす、トマト、かぼちゃ、ピーマン……夏野菜がたっぷり入っていて、トトもムムも、三ばいもおかわりしました。クマさんは、

「はちみつを入れてもおいしいんですよ」

なんて言いながら、カレーにはちみつを入れてくれました。

みんなのおなかがいっぱいになると、スタンプラリー大会が始まりました。

トトとムムが最初に行ったのは、森のはずれにあるどろんこぬまです。そこではカップさんが、『どろんだんご作り』というかん板を出して、みんなにどろんだんこの上手な作り方を教えていました。カップさんが、どろんだんこの頭にきゅうりの葉っぱをのせて、

「黒ガツパのできあがり」

と言ったので、トトとムムも、そばにあったオオバコをどろんだんこの頭にさして、

「黒ウサギのできあがり」

とまねしました。

「なかなうまい！」

と、カップさんはきゅうりのスタンプをおしてくれました。

次に行ったのは、ニワトリさんの家です。ニワトリさんは、『たまご料理教室』というかん板を出していました。家の中は、『初級・たまごやきの部』と『中級・ホットケーキの部』と『上級・オムライスの部』の三つに分かれています。トトとムムは相談して、ホットケーキにちよう戦することにしました。ニひきが、ポテポテこなをこねていると、ぴいこちゃんが、

「あわが立たないように、切るようにこねるのがコツよ」
と、アドバイスしてくれました。ニひきは一まい分の材料を半分ずつに分けて、小さくてかわいいホットケーキを作りました。すると、

「ごうかく！」

と言って、ぴいすけくんとぴいたろうくんが、たまごのスタンプをおしてくれました。

となりでオムライスを作っていたパンダさんは、中にこはんをつめすぎて、たまごに穴をあけてしまいました。でもパンダさんは、穴からこぼれ出てしまったこはんをつまみ食いしては、

「うーん。これはうまい!!」

とニコニコしながら言うてはごきげんでした。次は、サルさんの材木置き場に行きました。

そこでは、大工のサルさんが、『木のなんでも工作』をやっていました。いろんな形の木切れがならべられてあって、見るだけでわくわくしてきます。ムムが、

「これ、使っているの？」

と、サルさんに聞くと、

「おつ。おれが使った材木ののこりだから、使いほうだい、作りほうだい、持ってけどろぼう！
れ」

と、いせいよく答えてくれました。ニひきは、丸い、コースターほどの大きさの木切れに、太

めのえだを二つ付け、うさぎの形の表札を作りました。そして、細いえだや、木の実を使って、「トトとムム」と名前を入れました。

「家のがだいぶ古くなってきたから、新しいのととりかえなきゃと思ってたんだよね」とトトが言つと、

「うん、うん。ちょうどいい時に作れたね」

と、ムムもうなずきました。

その時、

「ガラーンゴローン、ガラーンゴローン」

と、広場のかねがなりました。おわりの合図です。空を見上げると、もう夕焼けくもがうかんでいます。二ひきは急いでサルさんにトンカチの先についているスタンプを、

「ほいさっ」

とおしてもらいました。

「あー楽しかった」

「もつとやりたかったな」

「またやりたいねえ」

動物たちは、そんな話をしながら、広場へ向かいました。

みんなが広場に集まると、野ネズミさんが言いました。

「今日はとっても楽しい会ができましたね。わたしもスタンプを二つ集めました。次はだれのたん生日でしょうか。また楽しみにして下さい。では、これで、トトとムムのたん生日会を終わりにします」

みんなはもう一度、トトとムムに、

「おめでとっ」

と言って、帰って行きました。

トトとムムは、みんながどれだけはりきって、今日のじゅんびをしてくれたのかという事をクマさんから聞いて、じーんとむねがあつくくなりました。

そして、

「今日は、とってもいいたん生日だったね」

「うん。みんなにおどろかされたねえ」

「次はほくたちも、みんなをびっくりさせるぞ！」
と話しながら、いつものようにお茶をのみました。

（おわり）